

うちの近所 コレイチ

わが町 自慢紹介 07



ハイカラな居留地の シンボル・川口教会

西洋の街へと 整備された川口

明治政府の樹立とともに鎖国が
おわり、東京・神戸・新潟とも
に大阪が開市・開港され、外国人
に商取引を認めることを決定しま
した。1868年(明治元年)大阪
開港と同時に川口は外国人居留地
と定められ、川口町26区画の諸外
国への競売が行われ完了。直ちに
街路樹や街灯、洋館が並ぶ西洋の
街へと整備されました。また、木
津川対岸の江之子島にはドームを
有する洋風建築の大府庁本庁舎
も建設されました。



阪神淡路大震災で被災した
が、3億円の資金を集め修復
された川口教会

1899年(明治32年)に居留地
制度は廃止されましたが、大正時
代末まで周辺一帯は大阪の行政の

中心であり大阪初の電信局、洋食
店、中華料理店、カフェができ、
様々な工業製品や嗜好品がここか
ら大阪市内に広まるなど、文明開
化・近代化の象徴でした。

貿易商に代わって 宣教師が定住

川口が貿易港として継続的發展
がでなかつたのは、河川港で水
深が浅く、大型船舶が入港できな
かつたため、外国人貿易商は神
戸の居留地へと移住しました。
彼らに代わってキリスト教各派
の宣教師が定住して教会堂を建て
て布教を行いました。1920年
(大正9年)竣工の壮麗な大聖堂が
ある川口教会は、この地域で有名
な建築物です。

居留地時代の建物は現存しませ
んが、名残りとし
て、プール学院、
大阪女学院、桃山
学院、大阪信愛女
学院などのミッシ
ョンスクールや聖
バルナバ病院等が
この地域で設立さ
れました。

Culture Navi かるちャーナび

平和の種まく人 九条の花を咲かせよう

千一・片山・山手九条の会(吹田市)
「千一・片山・山手九条の会」は、吹田市内に47ある九条の会のひとつで、3年前に発足しました。吹田市職労OBの岡光弘さんは、「先輩が戦争体験を若かった私たちに話してくれたことが、平和の運動のきっかけになった」とふり返って語ります。呼びかけ人、世話人などが月1回「9のつく日」



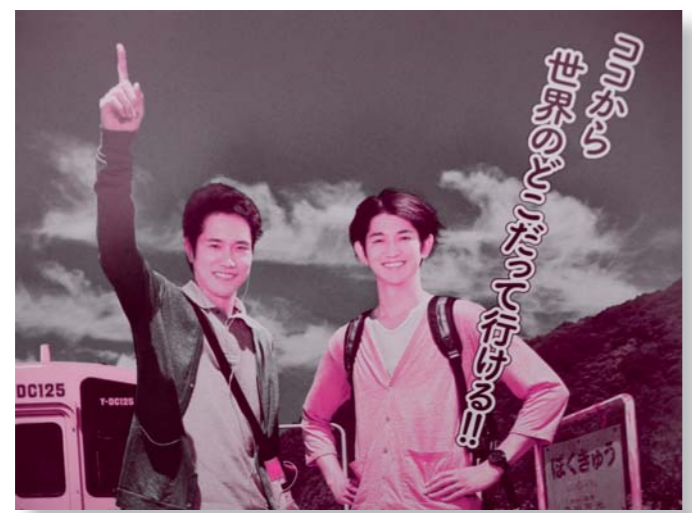
右端が岡さん、右から4人目が松田さん
今年も好評の干支9条シール

ど、それぞれのグループで分担しあって活動をしています。講演会の文化行事や講演も地元の方にお願
いし、地域の公民館を使って、活動が市民権を得る
ための実績をつくっています。
また、財政活動のひとつとして取り組んでいる
「干支9条シール」は年賀状に貼って利用され、と
ても好評です。「取り組みが成功した時に喜びは大
きいのですが、つながりをつけるための情報収集は
大変です」と吹田市労連OBの松田芳子さん。
「大阪自治労連の若者のみなさん！地元の九条の
会に参加し、一緒に活動しませんか」とのメッセ
ージをいただきました。

地元の人力を借りて「手作り」の活動

の駅頭宣伝、2ヶ月に1回のニュース発行や配布体
制の確立、年1回の講演会や戦争体験の聞き取りな

16ミニ映画が えいがか



「僕達急行 A列車で行こう」

最近とくに増えたのが鉄道ファ
ン。鉄男や鉄子が読者のみなさんの
近くにもきつといるでしょう。鉄道
マニアの青年たちが、恋に仕事にチ
ヤレンジする姿を描いたコメディが
この映画です。大都市や九州の地方
都市はじめ、自然の風景の中でゆっ
たり走る鉄道に、観ているものの心
も和らいでいきます。合計20路線80モ
デルにもおよぶ車両の登場が鉄道映
画らしいこだわりでしょうか。
主人公は小町と小玉、勤務先はの
ぞみ地所、とにかく登場する人物や
会社などすべてが特急列車の名前な
のが愉快です。「芸は身を助ける」
という言葉がありますが、趣味やハ
マっていることが何かの役に立ち、
局面を打開するのに役立つことも実

鉄道ファン必見 心もなごむ鉄道ムービー

際にあります。鉄道ファンにもそん
な面が…。
松山ケンイチと瑛太がコメディで
初共演。監督は「間宮兄弟」「武士
の家計簿」の森田芳光監督。しか
し、映画公開を待たずに、昨年の12
月20日に他界し、この作品が遺作と
なりました。タイトルの「A列車で
行こう」は、ジャズのスタンダード
・ナンバーの一つ。1939年にデ
ューク・エリントン楽団の演奏が大
ヒットしました。A列車とはニュー
ヨークの地下鉄のことで、「ジャズ
を楽しめる」ハレムに行くなら、
速く行けるA電車にお乗りなさい」
という意味がこめられています。上
映時間117分にとっぴりと鉄道が
詰め込まれています。

疑えば任ずるなかれ
任ずればすなわち疑うなかれ
司馬光

信用しない人間を義理や人情で重要なポストに任用すれば必ず失敗するでしょうし、いったん地位についたら上手に使うのが上に立つ人の才能でしょう。最後は北宋の宰相まで勤めた司馬光が自らの体験から得た信念です。北宋の官僚政治家で、前漢の司馬遷と並ぶ歴史家でもあります。少年のとき、大きな水壩に溺れた幼児をその壩を砕いて救出したエピソードは、物よりも人の生命を尊重した彼の哲学を伝えるものとしてよく知られています。

いまも心に響く
名詩・名歌・名語録

早蕨のにぎりこぶしをふりあげて
山の横つら春風ぞ吹く
おた なんぼ
大田 南畝(別号 蜀山人)

萌え出てきたばかりの蕨の若葉は、まさに幼子の拳のように握りしめられており、そのげんこつが春風に揺られて山の横面を張る一この「張る」という動詞と春風の「春」が掛け言葉になっています。大田南畝は田沼時代と呼ばれる時期に狂詩、狂歌、洒落本などで文才を発揮しましたが、1787年に寛政の改革が始まり、幕府から目を付けられたこともあって狂歌は止め、これ以降幕吏としての職務に励むかたわら随筆などを執筆しました。